

**令和5年度 第2回
門真市教育委員会点検・評価検討委員会 会議録**

開催日時 令和5年8月10日（木）10：00～11：15
開催場所 門真市役所 本館2階 大会議室
出席者 野田文子委員、新谷龍太郎委員
(委員長は野田文子委員、副委員長は新谷龍太郎委員)
事務局 鈴木教育部長、大倉教育部次長、峯松教育部総括参事、高岡教育総務課長、渡辺教育企画課長、高山学校教育課長、植原学校教育課参事、向井学校教育課参事、永田教育総務課長補佐、姫路教育総務課係員

傍聴者 なし
議事

野田委員長

定刻となりましたので、ただ今から、令和5年度第2回門真市教育委員会点検・評価検討委員会を開催いたします。

本日は、ご多忙にもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。それでは、本日の出席者数の報告を事務局からお願いします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

それでは、出席者の報告をさせていただきます。本日、全委員の方にご出席いただいております。

門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条第2項の規定にあります、過半数の出席の要件を満たしておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

野田委員長

ありがとうございます。

では続いて、本日の進め方と資料について、事務局より説明をお願いします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

本日の進め方ですが、点検・評価検討委員の皆様よりご指摘いただき、修正いたしました部分につきまして、7つございます「施策の方向」ごとに要点を各所属からご説明させていただきます。

その後事務局より、点検・評価検討委員の意見・助言を読み上げさせていただきますので、委員の皆様より新たに補足、訂正、追加等がございましたら、ご意見・ご助言をいただきたいと思っております。

そして、報告書のすべての項目が終わりましたら、点検・評価検討委員の皆様からいただいております、「全体についての意見」を事務局より読み上げいたしますので、こちらにつきましても、補足、訂正、追加等をお願いしたいと思います。

また、シートの中で前回ご指摘いただきました学校数が、令和6年度から統廃合の関係で19校になりますので、指標などで20校としていたものは全て19校に修正しておりますので、よろしく願いいたします。

そして、成果指標と主な取組の対応につきましても、前回対照表を用意しておりました。今回は対照表ではなく、シートの体裁を変更いたしております。例えば、点検評価シートの20ページをご覧ください。20ページの下ですね、ご覧ください。成果概要の①、②は主な取組の①、②に対応している、というように記載しております。また、共通事項につきましては、①・②共通と記載させていただきますので、よろしく願いいたします。

続きまして、シート後半にあるコロナシートや資料についてを説明させていただきます。95ページをご覧ください。

こちらが新型コロナウイルスの感染症の影響についてということで、項目を設けさせていただいております。95ページの方に主な事項として、令和2年3月2日から起こったことを、門真市と国・府の動きをまとめさせていただいております。まずは令和2年3月2日から令和2年5月31日まで、門真市の全小・中学校で一斉の臨時休校が始まりました。その後、緊急事態宣言がありまして、令和2年6月1日から6月12日まで、分散登校による授業を実施しました。その後、令和2年6月15日から通常授業で全面再開しまして、令和2年8月6日には夏季休業の短縮をしまして、令和2年12月26日は、冬期休業の短縮をいたしました。

その後、令和3年1月14日から、大阪府の方で緊急事態宣言やまん延防止等重点施策などの発令がされました。そして令和5年ですね、今年の5年。5月8日から感染症法により5類感染症に引き下げられたという並びになっております。

こちらが門真市と国・府の主な動きなんですけれども、96ページの方には、令和4年度、去年度の門真市の教育委員会の主な対応についてまとめさせていただきます。(1)が学校行事について、(2)が小中学校の感染防止の取組について、まとめさせていただきます。

(1)の学校行事については、水泳活動ですね。水泳活動については、各校の実情や感染状況に応じて、感染防止を徹底しながら、回数や学年・人数等を絞った上で実施させていただいております。運動会、体育祭については、各校で内容や実施形態等を工夫して実施とさせていただきます。

宿泊行事については、各校で内容や実施形態等を工夫して実施し、新型コロナウイルスの影響による校外学習や宿泊学習等の中止や延期にかかるキャンセル料については、本市で補填させていただきました。

そして入学式、卒業式については、各校で感染防止を行った上で、実施させていただきました。

続きまして、(2)の小中学校の感染防止の取組についてであります。感染防止に向けた小・中学校の各対応については、感染状況に応じて校長会等で協議し、対応内容を決定。そしてその内容については、保護者に対して通知文を配布し、本市ホームページにも掲載させていただきました。

二つ目が国の補助金ですね。国の補助金の「学校保健特別対策事業費補助金」がありましたので、これを引き続き活用し、学校における感染対策に必要となる備品等の購入をいたしました。

最後三つ目、スクールサポートスタッフの全校配置についても、令和4年度にも実施しました。こちらについては、教職員の負担軽減という観点もございます。

以上が、門真市の主な対応というところになります。

続きまして、この報告書の次の97ページからにつきましては、資料編としまして、門真市の開発的生徒指導や門真市版授業スタンダード、門真市版家庭学習の手引き、そして門真市版授業作りベーシック、門真市学びのすすめ、そして115ページには、用語集をつけております。

そして115ページの用語集の方には、115ページの中盤、後半あたりですね、IoTの説明を掲載させていただいております。モノに通信機能を搭載する技術ということで、IoTの説明を追記させていただいております。

以上、進め方とこちらの資料の説明になります。

野田委員長

ありがとうございます。ここまで、進行方法や資料についていかがでしょうか。

それでは、施策の方向1「確かな学力の育成」について修正箇所のご説明をお願いします。

植原学校教育課参事

まず、施策の方向1「確かな学力の育成」(3)グローバル化に対応するための取組の推進についてご説明させていただきます。

教育センターの植原です。よろしく申し上げます。

資料18ページをご覧ください。

令和4年度実施を踏まえた課題と今後の目標というところの、①外国語(英語)教育の充実の、1)の1行目中段からです。「現在、授業を行っている小学校5

年生、6年生に加え、小学校4年生においても」という文言を追加させていただきました。これは、委員方より、小学校4年生を増やすというところをわかりやすく文言を修正してください、というところに対して変更させていただきました。

続きまして、同じところの③の下から2行目「外国とオンラインで交流する機会を設けたり、実際に外国の文化に直接触れる機会を増やせるように」という文言を追加させていただきました。具体的な記載を入れてほしいという助言をいただいで修正しております。

この部分につきましては、以上になります。

野田委員長

それではご意見ございませんでしょうか。

事務局（永田教育総務課長補佐）

でしたら続きまして、学校教育課から（4）の「小中一貫教育の推進」の修正の分を先お願いいたします。

野田委員長

21 ページですね。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。21 ページです。

高山学校教育課長

21 ページをご覧ください。学校教育課長の高山です。

こちらにつきましては、質の部分についても記載があった方がいいというようなご助言をいただきましたので、③の修学前教育からの円滑な接続の部分におきまして、「令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった就学前教育との交流を復活させるとともに、取組の質の向上を目指します」というような記載に変更いたしました。

野田委員長

ありがとうございます。それではご意見ございませんでしょうか。

事務局（永田教育総務課長補佐）

続いて、こちらの教育委員の意見・助言も一緒に。

野田委員長

ここですか？

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。こちらで朗読させていただきます。

事務局（姫路教育総務課係員）

続きまして、意見・助言に移ります。91 ページをご覧ください。

施策の方向1「確かな学力の育成」について、前回、点検・評価検討委員の皆様よりいただきましたご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

まず、(1) 学習指導要領の確実な実施について。「授業で課題の解決に取り組んでいる児童の割合」が、小学校では高まっており良い傾向だが、中学校では下がっているため、要因の検討を進めていただきたい」次、「情報活用能力の体系表」の策定や地域等の外部資源の活用などは、非常に良いため、今後も進んで取り組んでいただきたい」「ICTの活用について、時代に合わせた取組を進めていただきたい」

次に、(2) 学力向上に向けた基盤づくりについて。「全国学力学習状況調査の小学校の得点数値が前年度に比べて低下しているため、例えば、教育センターで毎月作成している学習内容確認プリントを日々の家庭学習での指導で活用するなど解決策を講じていただきたい」「組織体制の強化について、コロナ禍で実施できていなかった教務主任や主席指導教諭の研修について充実したものにしていきたい」

次に、グローバル化に対応するための取組の推進について。「外国語（英語）教育の充実に向けた取組について、全体的に成果が見られるため、これからも継続していただきたい」

最後に、(4) 小中一貫教育の推進について。「幼・小接続について、取組の数を増やすだけではなく、カリキュラム内容を意識し、質を高めようとしている姿勢は良いと思う」「幼・小接続では、特に障がいをもった子どもの就学前・就学後の様子の共有が重要になってくるため、意識していただきたい」

以上です。野田先生お願いいたします。

野田委員長

では、これは1つずついきます。よろしいですか？

事務局（永田教育総務課長補佐）

そうですね、1つずつでお願いいたします。

新谷副委員長

まず1点目ですけれども、記憶が曖昧なので。(1)の2つ目の丸ポチの、情報活用能力の体系表の策定で、「地域等」って書いているんですけれども、地域の他に何かあったのかなと思ひまして、地域や企業とか？「等」って何を意味していたのか、ちょっと記憶が曖昧なので、確認いただきたいです。「地域等」じゃなくて、「地域や企業」とするか、もう少し振り返っていただいた方がいいかなというのと、(3)ですけれども、他の項目に比べて指摘事項が一つなので、付け足しです。ここに入れていいのかわからないのですが、「英語以外にも、外国に繋がる子どもの母文化、母言語を尊重する取組をしてほしい」ということを付け加えていただくと、グローバルというところに、繋がるかなと思ったので、コメントさせていただきます。

事務局（永田教育総務課長補佐）

ありがとうございます。もう一度、おっしゃっていただいてもよろしいでしょうか。

新谷副委員長

はい。「英語以外にも、外国に繋がる子どもの母文化、母言語を尊重する取組をしてほしい」

事務局（永田教育総務課長補佐）

ありがとうございます。「英語以外にも、外国に繋がる子どもの母文化、母言語を尊重する取組をしてほしい」

新谷副委員長

はい。「ぼ」は「母」です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

母文化・母言語

新谷副委員長

はい。「父・母」の「母」です。

鈴木教育部長

母国語の「母」。「母」文化、「母」言語。

事務局（永田教育総務課長補佐）

「母」文化。「母」言語ですね。

野田委員長

それでは私の方から、表現の部分を修正していただきたいと思っています。

まず一つ目なのですが、「授業で課題の解決に取り組んでいる児童の割合」が小学校では高まってきている」ここで切ってください。「中学校では下がっているため、要因の検討を進めていただきたい」それから、一つ目と二つ目は、確か連動していた部分だと思いますので、合体させて、三つ目の、「ICTの活用について、時代に合わせた取組を進めていただきたい」「特に」というので、②につけていただいて、情報活用能力の体系表の策定や、次「地域」だけでもいいかもしれない。企業を入れなくてもいいので、取って。

新谷副委員長

はい。

野田委員長

地域の外部資源の活用が、「活用に」ですね。活用に引き続き取組んでいただきたい。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。わかりました。

野田委員長

それから二つ目なのですが、これも一つ目の黒丸ちよぼですが、「しているため」となっているのですが、まず、「している」で切っていただいて、それから、その後「例えば」を取ってですね、「教育センターが中心となり」ということで、「毎月作成している学習内容確認プリントを日々の学習の」というのはちょっと細かすぎますので、活動を指示しているような雰囲気がありますので、そこを消していただいて、説明しようと思って言った言葉でしたので、「教育センターが中心となり家庭学習の指導を推進していただきたい」そういう文章にしてくださいませか。

それから、三つ目はもう要らないのではないかな。コロナ前に戻るということですので。これは書かなくてもいいんじゃないかなと思いますので、消してくだ

さい。一つになりますけれども。

それから三つ目ですけれども、先生よろしいですか。

新谷副委員長

どうぞ。

野田委員長

三つ目になります。(3)ですけれども、ここもですね、ちょっと文章を短くして「外国語教育の充実に向けた取り組みについて全体的に成果が見られる」ここで切ってください。成果があったということでいいと思います。

それから、(4)の方ですね。ここもちょっと文を短くしていただいて、「幼・小接続について、取組の数を増やすだけではなく、カリキュラム内容を意識した努力が見られた」にしてください。

これもここでいいと思います。評価しているということですので。それから二つ目はこのままで。

以上、1から4までの意見・助言の修正です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

修正させていただきます。

野田委員長

よろしく願いいたします。それでは施策の方向2「すべての子どもへの学習の支援」についてについてについてお願いいたします。

高山学校教育課長

学校教育課長の高山です。お手元資料の30ページをご覧ください。

実施施策名2、不登校児童生徒への支援の部分になります。

令和4年度実施を踏まえた課題と今後の目標のところの、②に下線部が引いてある部分になりますが、こちらについては、関係機関との連携強化の部分について記載を増やさせていただきました。増やした部分を読み上げさせていただきますと、「専門性を生かした効果的な活用を目指すとともに、様々な関係機関との一層の連携強化に努めてまいります」としております。

以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

続きまして、意見助言に移ります。91ページをご覧ください。

施策の方向2「すべての子どもへの学習の支援」について、ご意見、ご助言を
読み上げさせていただきます。

(1) 障害のある子供の自立支援について。「支援教育の支援員や学校看護師
の配置については、実際に直面している学校教育現場の中で、長期的な視野を持
ちながら実施していく必要があると考える」「支援学級を担当する先生の専門性
を考えると、研修回数をもう少し増やした方が良いと感じる」

(2) 不登校児童生徒への支援について。「小中学校の不登校率について、不
登校支援学生フレンドやかがやき等を通じて、手厚いサポートは見られるが、本
人の心身の問題や家庭の事情等については、門真市の他機関との連携も意識し
ていただきたい」「不登校の子供については、校内にすることで、先生やクラス
メイトが声をかけることができたり、入りやすい授業を選ぶことができたりす
るため、適応指導教室の設置、整備を今後も進めていただきたい」

(3) 様々な状況下における学習機会の確保について。「モバイルルーターに
ついては、家庭学習で活用できるといった利点があるため、今後も確保を進めて
いただきたい」以上です。

野田委員長

それではご意見お願いいたします。

新谷副委員長

2点あるんですけれども、まず(2)の二つ目の丸ポチですが、最後の行は適
応指導教室ではなくて、校内適用指導教室だったかと思imasので、「校内」を
入れてください。

(3)は、一つしか丸ポチがないので、二つ目を付け加えさせていただき
たいのですが、「学力保障を支えるオンライン学習のあり方については、今後も研究
を進めてほしい」と付け加えてください。もう1回、言います。「学力保障を
支えるオンライン学習のあり方については、今後も研究を進めてほしい」です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

ありがとうございます。「学力保障を支えるオンライン楽章学習のあり方につ
いては今後も研究を進めてほしい」

野田委員長

それでは私の方は、これもちょっと無駄な文、文字を取るということで、(1)
の一つ目の文章ですが、最後「実施していく必要がある」で切ってください。「考
える」は要らない。「必要がある」にしてください。

それから、(2)の不登校児童生徒への支援の一つ目の文章なんですが、最後の方にですね、「他機関との連携も意識していただきたい」という書き方で、抽象的なので、「効果的に活用していただきたい」と言い直していただけたら、私の方はそれだけです。よろしいですか。

新谷副委員長

はい。

野田委員長

それでは、施策3の方向「豊かでたくましい人間性の育み」についてお願いします。

植原学校教育課参事

教育センターの植原でございます。施策の方向3(1)自分の将来を描ける力の育成の35ページ下段をご覧ください。

活動指標、キャリア教育担当者連絡会の実施回数について、令和5年度「5回」に変更しております。

続きまして36ページ。令和4年度の活動成果概要のところ、①キャリア教育の推進。一番下の行に「キャリアパスポートの活用といたしましては、各学校において実態に応じた活用を行っております」キャリアパスポートの活用についての文言を追加した方がいいのではないかというご助言いただきまして、追加させていただきました。

続きまして、(2)豊かな心を育む教育の推進。38ページの②情報モラル教育の推進。活動指標のところ、令和5年度、6年度7年度と2回ずつ、教育センターと学校教育課の生活指導担当と、両方で実施してまいりますので、増やしております。

続きまして39ページ、②のところ、情報モラル教育の推進の1行目。「年度初めに、対面式で実施し、その後オンデマンドで門真市教職員への限定公開し、校内研修や自己研鑽、確認等に活用できるようにしました」具体的な事象を載せさせていただきます。

高山学校教育課長

引き続き、学校教育課長の高山です。(3)の開発的生徒指導の推進については修正ございません。

43ページからの(4)いじめ防止への取り組みの推進の部分をご覧ください。

44ページの下段になります、令和4年度実施を踏まえた課題と今後の目標の

ところを修正いたしました。前回は「いじめ重大事態の防止という点で大きな課題が残りました」という記載になっておりましたが、課題が残ったということだけではなくて、表現の工夫であるとか、体制構築の部分をもう少し手厚く変えた方がいいという助言をいただきまして、そちらにありますように修正をさせていただいております。具体的には、「いじめ重大事態としての対応が必要なケースにつきましては、法に基づいた適切な対応を行うとともに、早期の解決をめざします」という形で、前向きな表現に修正いたしました。

その次の段落につきましても、そちらに記載の通り、具体的な書きぶりへと変更いたしました。

続きまして（５）の人権尊重の教育の推進をご覧ください。ページは47ページになります。

47ページの令和4年度実施を踏まえた課題と今後の目標についてです。（１）（２）の２項目を修正いたしました。

前回は課題について書いておりましたけれども、課題よりも違う書き方のほうが良いのではないかというご意見をいただきまして、①のところは、「研修等の機会に好事例の共有等を行い、全ての学校において人権教育の充実を推進します」といたしました。

②のところは、「教職員研修等の充実をとおして、授業の質の向上に取り組めます」というようにいたしました。以上です。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは92ページをご覧ください。

施策の方向3「豊かでたくましい人間性の育み」について、ご意見、ご助言を読み上げさせていただきます。

（１）自分の将来を描ける力の育成について。「門真市キャリア教育指針については、夏休みでのキャリア教育担当者交流会を含め大いに活用していただきたい」「キャリアパスポートの活用について、全国的にも事例は少ないため、ぜひ先進的に取り組んでいただきたい」

次に（２）豊かな心を育む教育の推進について。「先生たちは、自分が努力したことを認めてくれると思う児童生徒の割合」について、少しずつ伸びてきているため、今後減らないように意識していただきたい」「先生たちは、自分が努力したことを認めてくれると思う児童生徒の割合」を高めるためにも、校内研修の質を高めていっていただきたい」

次に（３）開発的生徒指導の推進について。「自尊感情を維持することは、年を追うごとに難しくなっていくと考えられるが、令和2年度から「自分にはよいところがあると思う生徒児童の割合」が増えているというのは良い傾向だと思

う」「子どもの発達を支持するといった考え方を大事にしながら、今後とも「門真市開発的生徒指導」の取組を進めていただきたい」

次に（４）いじめ防止への取組の推進について。「いじめ重大事態に対して、積極的に対策を進めていただきたい」「他機関との連携を図るためにも、いじめの認知件数に対する対応率にも意識を向けていただきたい」

次に（５）人権尊重の教育の推進について。「人権教育の研修を通して、人権感覚を全教職員で共有し、教員の意識の差を解消できるよう進めていただきたい」「A I 翻訳機の貸し出しやワイワイパーティーについては、良い取組であるため、今後も継続していただきたい」

最後に（６）読書活動の推進について。「1日の読書時間数について、いきなり1時間を目指すのではなく、10分から30分の割合を増やしていくことを目標に取組を進めていただきたい」「読書は学力にも繋がるため、しっかりと目を向けていただきたい」以上です。

高山学校教育課長

すみません。（６）の読書活動の推進のところの修正を説明するのを忘れておりましたので、させていただきますもよろしいでしょうか。申し訳ありません。

野田委員長

はい、どうぞ。

高山学校教育課長

50 ページをご覧ください。（６）読書活動の推進のところの成果指標についてです。

以前は、1時間以上の子どもの割合を指標として載せておりましたが、前回、1時間ということになると、非常に数値が低くなってしまうため、10分から30分というような、もう少し短い時間帯から目標を設定してはどうかというご助言をいただきました。それを受けまして、今回10分以上の回答の割合にしております。

次に51 ページをご覧ください。こちらについては、以前は、課題と目標という2観点で箇条書きに記載しておりましたが、他のページと書きぶりを統一した方がいいという指摘を受けましたため、①②③という項目ごとに記載を改めました。以上です。

野田委員長

それでは、施策の方向3のところ、ご意見をしたいと思いますが、まず

どちらからでも。

新谷副委員長

では私から。

野田委員長

意見助言から先言っていただいてもいいですし、修正箇所に関する意見もありましたらお願いいたします。

新谷副委員長

はい。92 ページの意見助言のほうだけですけれども、(4) のいじめ防止への取組の推進で、丸ポチが増える形になるんですが、ぜひ付け加えていただきたいなというのが、「SNS を使用したいじめを防止する取組は良いので、今後も取り組んでほしい」と付け加えていただきたいなと思います。繰り返します。「SNS を使用したいじめを防止する取り組みは良いので、今後も取り組んでほしい」です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

「SNS を使用したいじめを防止する取組は良いので、今後も取り組んでほしい」と。

野田委員長

よろしいですか。

新谷副委員長

はい。大丈夫です。

野田委員長

同じ意見助言のところの3 ですが、まず(1) の1 です。ここも修正をいただこうと思います。文言の修正です。「門真市キャリア教育指針について」としてあるんですが、「キャリア指針に基づき」としてください。「夏休み」というのも細かすぎますので、消していただいて、「キャリア教育担当者会交流会を含め、多くの場面で活用していただきたい」と、「大いに」ではなくて「多くの場面で活用していただきたい」としてください。

二つ目はそのまま、それから(2) の豊かな心を育むのところですが、二つ目の丸ちよぼの「今後減らないように意識していただきたい」というのが、無駄

な言葉だと思いますので、「少しずつ伸びてきている」という評価だけにしてください。

それから二つ目は、一つ目と文章がずっと被っていますので、「先生たちは、自分が努力してることを認めてくれると思う児童生徒の割合を」というのを消していただいて、「これをさらに高めるためにも、校内研修の質を高めていっていただきたい」と、そういうふうに、繰り返しを消してください。

それから、3 開発的生徒指導の推進のところも一つ目の黒ちょぼですが、最後「というのは良い傾向だと思う」を取っていただいて、「増えている」と書くことで、評価していることになりますので取ってください。

それから（4）いじめ防止のところなんですが、いじめ重大事態に対して、この「積極的に」というのを「引き続き」対策を進めていただきたいにしてください。

それから（5）はですね、一つ目は「人権教育の研修を通して、人権感覚を全教職員で共有」その後ですね、「意識の差を解消する」という言葉があったのですが、それを取っていただいて、「共有できるよう進めていただきたい」と。非常に具体的に中身を口頭で言うておりましたので、「全教職員で共有できるよう進めていただきたい」と。あとはそれで良いと思います。

それから6 読書推進のところなんですが、もう修正していただいているので、「1時間を目指すのではなく」のあと、「少しずつ向上させるという意味で」というのを入れてください。「少しずつ向上させるという意味で、10分から30分の割合を増やしていくという目標に向けて、取組を進めていただきたい」と。

あとはいいと思います。「しっかり目を向けていただきたい」というのもあれるので、「繋がるため、さらに子どもの読書指導を推進していただきたい」と。もう一度言います。「読書は学力にも繋がるため、さらに読書指導を推進していただきたい」

それから、ちょっと戻っていただいて、評価シートの方なんですが、36 ページ（1）自分の将来を描ける力の育成のところですが、キャリアパスポートが主な取組に入っているのですが、成果概要にも入れていただいたんですが、ここだけちょっと言葉が丁寧になりすぎている気がしますので、「活用としましては」ではなく「活用については」とかですね、行って「おります」を「います」ぐらいがいいかなと思いました。

あとは44 ページ、いじめ防止への取組の44 ページ下の修正していただいたところですが、ここも具体的に今後の方向を書いていたのですが、修正していただいた初めの方の「いじめ重大事態というとしての対応が必要なケースにつきましては、法に基づいた」というのを、「引き続き、法に基づいた」としてください。今までしていなかったみたいに見えるといけませんので。以上です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

ご指摘いただきましたところ、修正させていただきますのでよろしく願いいたします。

野田委員長

次にいって大丈夫ですか。

新谷副委員長

大丈夫です。

野田委員長

それでは、施策の4ですね。「健やかな体を育てる教育の推進」についてをお願いいたします。

高山学校教育課長

学校教育課長の高山です。政策の方向4の実施策名（1）体力づくりと健やかな生活習慣の確立に向けた取組です。54ページをご覧ください。

中段の令和4年度活動・成果概要の部分です。前回の会議において、体力向上にみられた課題に対する取組が、広報することだけの記載にとどまっていると。それだけではなくて、取組についても書いた方が望ましいというご指摘をいただいたため、下線部のように修正をさせていただきました。「体力向上に向けては、体育の授業内容の工夫改善はもちろんのこと、家庭の協力も大切であることから、市の広報を活用し、家庭での生活習慣や運動習慣の見直しについての啓発も行いました」としております。

続きまして55ページをご覧ください。こちらにつきましては、体力向上アクションプランについて少しわかりにくいところがあると。アクションプランが、昨年度作られたものなのか、今年度作っているところなのか、今後作る予定なのかというところを、調べてくださいということでしたので、下線部のように記載させていただきました。「体力向上アクションプランにつきましては、学校教育計画に位置づけておまして、毎年度、各学校において見直しをしております」修正箇所は以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、92ページをご覧ください。

施策の方向4「健やかな体を育てる教育の推進について」ご意見、ご助言を讀

み上げさせていただきます。

(1) 体力づくりと健やかな生活習慣の確立に向けた取組について、「生活習慣の指導として、タブレット端末等の家庭での使い方等の指導も検討していただきたい」

(2) 食育の推進について、「研修を実施したり、給食選手権を再開したりなど、積極的な動きを評価したい」「給食事故再発防止のための注意喚起やマニュアルの作成等は、今後も継続して行っていただきたい」「朝食喫食率について、全国平均と比べて中学校の数値が低いため、改善に目を向けていただきたい」以上です。

野田委員長

ありがとうございます。それではお願いいたします。

新谷副委員長

はい。やはりここも(1)が、丸ポチ1つだけなので、付け加えさせていただきますと思います。付け加える内容として、「地域資源を活用した放課後の体力づくりの取組みを研究してほしい」ということでお願いします。「地域資源を活用した放課後の体力づくりの取組みを研究してほしい」です。以上です。

事務局（永田教育総務課長）

「地域資源を活用した放課後の取組みを研究していただきたい」

新谷副委員長

「体力づくりの」ということで。

事務局（永田教育総務課長）

「体力づくりの放課後の取組みを」ですね。

新谷副委員長

はい。

野田委員長

それでは私の方から、(1)の方はございません。(2)の方の文言の修正を最初にします。

一つ目が、「積極的な動き」というのは適切ではないので、「積極的な取組を評価したい」としてください。

それから二つ目も、「今後も継続して行っていただきたい」の「行って」は要りません。「していただきたい」としてください。

三つ目は、なかなか難しいところで、学校だけの問題ではないので、取っていただいてもいいかなと思います。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。こちら削除させていただきます。

野田委員長

お願いします。それから細かい点ですが、55 ページのアクションプランの説明を足していただいたところですが、55 ページの赤字のところですが、ここも非常に丁寧に、学校教育に位置づけて「おります」となっていますので、位置づけて「います」と。後から入れると何故か丁寧に。そこだけです。気がつきました。

それでは、施策の方向5「教職員の子どもとの関わりの充実」についてお願いいたします。

植原学校教育課参事

教育センターの植原でございます。（1）教職員の人材育成の 62 ページをご覧ください。令和4年度活動・成果概要のところ、①の下から4行目のところです。前回、総数が増えている理由もあわせて記入してほしいという助言いただきましたので、そこに書いてあるような文言に修正させていただいております。以上です。

向井学校教育課参事

続きまして、学校教育課参事の向井でございます。63 ページをご覧ください。成果指標の③の学校教育診断アンケートの項目の部分ですが、何点満点かがわかりにくいということでしたので、4点満点という文言を入れさせていただきました。

続きまして、（2）の職場におけるハラスメントの防止についてであります。66 ページをご覧ください。成果指標の令和5年6年7年の目標の部分につきまして、めざす指標に合わせまして、令和6年度を94.0、令和7年度を100.0と数値を変更させていただいております。以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、93 ページをご覧ください。施策の方向5「教職員と子どもとの関わりの充実」について。

(1) 教職員の人材育成について、「人事評価の面談の際に、駄目なところを見つけるのではなく、教職員を力づけたり、サポートしたりすることを意識して行っていただきました」

(2) 職場におけるハラスメントの防止について「職場でのハラスメントについて、教職員全員が許さないという意識を持てるように、実践的な研修を行っていただきたい」以上でございます。

野田委員長

私が先行きましようか。ページ変わりましたので。

新谷副委員長

お願いします。

野田委員長

では最初の本文の方なんです、62 ページの、研修が増えたという修正していただいたところなんです、「回収が増えたこともあり、総研修数においては」「おいて」は要らない？細かい微妙なところですが、何か別にもう一つあるみたいに聞こえるので。

植原学校教育課参事

そうさせていただきます。

野田委員長

「総研修数は増加しました」ですね。

それで 93 ページにいていただいて、教職員の人材育成(1)のところ。ここも、したことが文章になると、正しく伝わっていない気がしますので、少し消していただいて、だめなところを見つけるのではなくというのを消してください。まるでそれをしっかりしているみたいに読めますので、「人事評価の面談の際に、教職員を力づけたりサポートしたりすることをさらに意識して行っていただきたい」にしてください。私からはそれだけです。

新谷副委員長

私は、特に付け加えや修正はありません。

野田委員長

ありがとうございます。それでは、施策の方向(6)をお願いいたします。

向井学校教育課参事

学校教育課参事の向井です。まず（１）学校組織の改善と「チーム学校」としての組織力の強化についてでございます。70 ページをご覧ください。

令和４年度の活動・成果概要の③コミュニティ・スクールの推進についてという部分ですが、中ほどの「学識からの」となっていた部分を「学識経験者から」と追記をさせていただきました。

併せて、その下の成果指標①の部分ですが、方針等が学校で共有され、という部分ですが、ここの部分の令和５年６年７年をめざす指標の 100%にあわせて、令和５年度を 87.0、令和６年度を 94.0、令和７年度を 100 というふうにさせていただいております。

続いて、73 ページの（２）教職員の働き方改革の推進でございます。

まず最初の 73 ページの部分の、めざす指標の欄を令和７年度 70 と、めざす指標にあわせて修正させていただいております。

続いて 74 ページの令和４年度の活動・成果概要の部分につきまして、誤記載がございましたので、正しく、中ほどですね「44 分（１日あたり 2.2 分）の削減、中学校では 1 時間に 18（１日あたり 4.4 分）削減」と修正をさせていただいております。以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは 93 ページをご覧ください。施策の方向（６）「学校の組織力向上と開かれた学校づくり」について、ご意見ご助言を読み上げさせていただきます。

（１）学校組織の改善と「チーム学校」としての組織力の強化について、「コミュニティ・スクールの設置について、拡大することは良いことだが、拡大の急速さから本来の理念や役割を忘れないよう丁寧に取り組んでいただきたい」「コミュニティ・スクールについて、地域と目標を共有し、連携しながら進めていただきたい」

（２）教職員の働き方改革の推進について、「教職員の時間外在校時間は年々減ってきており、少しずつ成果が見えてきているが、小学校と中学校で差が開いているという点にも目を向けて、今後も改善を図っていただきたい」以上です。

野田委員長

それでは、ご意見でございますでしょうか。私は、特にこの 6 のところはございません。

新谷副委員長

表現について、(1) コミュニティ・スクールの設置についてのところですが、「拡大することは良いことだが、拡大の急速さから」というところを削除いただいて、「地域と協働するという本来の理念や役割を忘れないよう、丁寧に取り組んでいただきたい」という表現ぐらいに落ち着かせたいと思います。もう1回最初から読みますと、「コミュニティ・スクールの設置について、地域と協働するという本来の理念や役割を忘れないよう、丁寧に取り組んでいただきたい」以上です。

野田委員長

わかりました。それでは施策7ですね。「安全・安心・快適な学びの場づくり」についてお願いします。

高岡教育総務課長

教育総務課高岡です。77 ページをご覧ください。学校施設の改善についてです。主な取組の①長寿命化計画の推進について活動指標の内容を修正しております。あわせて、78 ページの活動・成果概要についても変更をしております。長寿命化計画の改定自体ということについては、なかなか毎年の実績等が示せないところから、長寿命化を見据えた改修を計画することを指標に変更しまして、それに合わせて内容を修正しているという内容になります。

続きまして、(2) と (3) は修正ありませんので、85 ページをご覧ください。

(4) 子どもたちを事故や災害から守るための取組の充実につきまして、修正があるのが、86 ページの活動・成果概要と 87 ページの課題と今後の目標のところです。活動・成果概要につきましては、②の防災教育の推進についてがなかったので追記をしております。修正点としましては、④の下に米印を入れているんですけども、こちらの方の「協力者の登録を年度更新制に変更し」というところの部分、前は、課題と今後の目標の方に文章を入れていたんですけども、成果概要として今回ここに取り上げさせていただきました。この観点からあわせて、87 ページの課題と今後の目標につきましては修正をしております。

IoTの話があったんですけども、こちらにつきましては、センサーによって児童がどこを通ったかというところについて、見守り機能の導入を検討しているというところがありますので、このような形で残させてもらっています。以上です。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは93 ページをご覧ください。施策の方向7「安全安心快適な学びの場づくりについて」ご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

(1) 学校施設の改善について、「子どもたちの安全・安心な教育環境を確保するため、今後も引き続き必要な改修工事を行っていただきたい」

(2) 新たなつながりを創る学校づくりについて、「新しい学校づくりについて、計画通り進行している点は良いと思うため、今後も地域や子どもたちを巻き込みながら、「つながり」を意識して進めていっていただきたい」

(3) 児童生徒一人ひとりの課題に沿った支援について、「子ども悩み相談サポートチームについて、連携回数やケース会議の回数などが増えてきて、とても良い」「スクールアドバイザーについては、学校組織体制の強化や授業力向上など良い役割を果たしていると感じるため、今後も活用進めていっていただきたい」

次の(4) 子どもたちを事故や災害から守るための取り組みの充実、につきましては、後ほど委員様よりご意見をいただきたいと思っております。お願いいたします。

最後に、(5) 学校外における子どもの学習支援の推進について、「Kadoma 塾について、成果が出ていると思うため、実施場所を広げることができたらより良いと感じた」以上でございます。

高山学校教育課長

1点、説明が漏れました。86 ページをご覧くださいませ。

86 ページの令和4年度活動・成果概要の②の防災教育の推進のところです。前回、防災教育の具体例を入れた方が良いというご指摘をいただきましたので、昨年度実施しました具体的な取り組みである、本市危機管理課職員を招いての防災講話をしたことであるとか、段ボールベッドの組み立て、使用体験等を実施した取組事例がありましたので、そのあたりを例示しながら、書きぶりを充実させました。

野田委員長

よろしいですか。それでは、修正・意見なのですが、最初に93ページの方から聞きたいと思っております。

(2) 新たなつながりを創る学校づくりのところ。「新しい学校づくりについて計画通り進行しており」にしてください。「しており、今後も地域や子どもたちを巻き込みながら、つながりを意識して進めていただきたい」「いって」を取ってください。

それから(3)のところも、「とても良い」と書いていますので、一つ目です。「子ども悩み相談サポートチームについて、連携回数やケース会議の回数などが増えてきている」としてください。

それから(4)のところなのですが、「防災教育の記述が入りましたので、防

災教育の取組もさらに進めていただきたい」というかたちで、もう一度言います。
「防災教育の取組については、更に推進していただきたい」

事務局（永田教育総務課長補佐）

ありがとうございます。「防災教育の取組については、さらに進めていただきたい」

野田委員長

そうです。それから（５）のところは、新谷先生どうぞ。

新谷副委員長

では（４）の付け足しを２点と、（５）につきまして意見を述べさせていただきます。（４）ですけれども、一つ目は、「プール事故や水難事故防止の指導にも、引き続き取り組んでほしい」もう１回言います。「プール事故、水難事故防止の指導にも引き続き取り組んでほしい」

事務局（永田教育総務課長補佐）

「プール事故、水難事故防止の指導にも引き続き取り組んでほしい」

新谷副委員長

はい。２点目ですけれども、「地域と協働した防災教育カリキュラムの開発に取り組んでほしい」地域と協働、協力して働くの方の「協働」です。「地域と協働した防災教育カリキュラムの開発に取り組んでほしい」

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。「地域と協働した防災教育カリキュラムにも取り組んでほしい」

新谷副委員長

カリキュラムの「開発」があった方が。

事務局（永田教育総務課長補佐）

わかりました。

新谷副委員長

ではもう１点、（５）の付け足しですけれども、「学校外の学習支援や居場所につながるアウトリーチ体制についても充実させてほしい」もう１回言います、

「学校外の学習支援や、居場所につなげるアウトリーチ体制についても充実させてほしい」です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。「学校外の学習支援や、居場所につなげるアウトリーチ体制についても充実させていただきたい」ありがとうございます。

野田委員長

それでは（４）のところ、追加というか削除ですけれども、新谷先生に言っていた「地域と協働した防災教育」の方が丁寧ですし、抽象的なものよりはこれだけの方がいいと思うので、私の「防災教育を推進していただきたい」というのは削除してください。新谷先生に言っていたのでいいと思います。一本化してください。

事務局（永田教育総務課長補佐）

わかりました。

野田委員長

それでは本文の方もよろしいですか。

新谷副委員長

そうですね。

野田委員長

全ての項目が終わりましたので、全体を通しての意見について、事務局より朗読をお願いいたします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。94 ページの全体についての意見を朗読させていただきます。

まず一つ目が、「学力について向上はしているが、小学校がまだ少し低いため、研修の充実や学習内容の改善等を図り、教員の事業に対する意識をより向上させていただきたい」

二つ目が、「特別な配慮や支援を必要とする子どもについて、学校教育の中でどのように対応していくのかを長期的な視点に立って、研究・検討をしていただきたい」

三つ目。「児童生徒の自尊感情の育成については、良い方向に伸びてきており、

教員の信頼性も向上している。年を追うほど高めるのは難しい項目であるため、今後も維持していただきたい」

四つ目です。「子ども1人ひとりの発達成長を支援するためにも、開発的指導については、今後も積極的に取り組んでいただきたい」

五つ目です。「研修については、全教職員が理解して共有し合えるようにし、かつ内容の質を高めていっていただきたい」以上です。

野田委員長

それでは意見を、私の方からしてもいいですか。1つ目なんですが、2行目です。「意識」という抽象的な言葉が入っていますので、教員の授業に対する「取組」をより向上させていただきたい、と「意識」を「取組」に変えてください。

それから、3つ目なんですが、「年を追うほど高めるのは難しい」これも言わずもがなのことなので削除していただいて、「引き続き維持していただきたい」としてください。

それから、3つ目なんですが、「開発的生徒指導については」という文の後に、新しい生徒指導提要が出来ていますので、これによって開発的生徒指導が大きく変わることはないと思うんですけども、基本的には同じ考え方でし、私もほとんど同じだと思いますので、「踏まえつつ」ぐらいは入れておいた方がいいと思います。「何年の」と入れてもいいんですが、「新しい生徒指導提要を踏まえつつ、今後も積極的に取り組んでいただきたい」としてください。

4つ目は、最後の「高めていっていただきたい」の「いって」を取っていただいて、「高めていただきたい」としてください。

新谷副委員長

それでは、僕も付け足しで1つ述べさせていただきます。「スクールソーシャルワーカーなどを活用した教育と福祉の連携を、今後も進めてほしい」もう一回繰り返します。「スクールソーシャルワーカー等を活用した教育と福祉の連携を、今後も進めてほしい」です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

「スクールソーシャルワーカー等を活用した教育と福祉の連携を、今後も進めてほしい」ですね。ありがとうございます。

野田委員長

よろしいでしょうか。さまざまなご意見ありがとうございました。

本日、いただいた意見も取り入れまして、点検・評価報告書を作成させていた

だきます。

会議につきましては、本日が最後ですが、今後の報告書作成の流れを事務局よりお願いいたします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

今後の流れについてであります。まず、本日のご意見を事務局でまとめさせていただきまして、加筆・修正のうえ、点検・評価検討委員の皆様へ改めて送付させていただきますので、お願いいたします。

点検・評価検討委員の皆様より、ご確認いただけましたら、事務局の方で報告書を完成のうえ、答申とさせていただきます。

その後、8月25日に教育委員会定例会がございますので、こちらに議案として諮り、可決の運びとなれば、9月の市議会に提出をさせていただきます。

その後、点検・評価検討委員のみなさまには、完成後の点検・評価報告書を送付させていただきます。

以上が今後の流れでございますので、よろしくお願いいたします。

野田委員長

それでは、本日の案件は以上です。これにて門真市教育委員会点検・評価検討委員会を終了させていただきます。

長時間に渡り、誠にありがとうございました。